

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、昭和43年(1968年)に創立され、今年度58年目をむかえる学校である。比較的歴史の浅い小学校ではあるが、地域から深く愛されている学校であり「健康で明るく 自主的に」の校訓のもと、未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童においては、素直な子どもたちが多く、様々な学習活動に対しひたむきに取り組みたいという態度が見られる。その反面、学力の課題があり、児童の前向きな思いを真摯にとらえ、学校全体で児童の学力向上に継続的に取り組むことに重きを置き、本校においては算数科を研究教科として児童の基礎学力の定着に取り組んだ。その結果、昨年度、年度目標「小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる」において対全国比の目標は0.92であったが、1.02を達成し目標より0.10ポイント上回ることができた。

また、児童数に対して運動場が非常に広い学校であり、意図的計画的に体力・運動能力の育成をすすめながら、生涯体育の観点から自ら取り組み必要とする体力をつけていくことにも取り組んでいきたい。

令和6年度においては、教育目標「豊かな心で自ら考え行動し、思いやりのある優しい子どもを育てる」ことを目指し、学力、体力、道徳力あるいは安全・安心という観点から、工夫をこらした教育活動を進めてきた。その結果、教職員が粘り強く継続的に学校運営、学級運営に取り組んだことで、多くの年間目標を達成することができた。

令和7年度も引き続き大阪府教育振興基本計画（施策目標）の達成のため、本校の特色や課題を教職員全体で協議した上で、3つの最重要課題に対し年度目標を設定した。さらには、今年度は中期目標に対する総括の年度でもあるため、中期目標達成を見据えた取り組みと合わせ、学習や学校生活にかかる規律、自尊感情や他者を思いやる心の育成、不登校児童に対する支援など、本校の現状や課題を見据え、継続的に計画を進めていきたい。

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

○令和7年度の学校生活アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、いずれの学年も100以上にする。

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、男女とも令和3年度より8ポイント向上させる

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ICTの活用を進めることにより、令和7年度の学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目において「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を93%以上にする。
- 教職員の働き方改革を進め、令和7年度において教職員の全員が毎月の時間外勤務時間30時間以下となるようにする。

**2 中期目標の達成に向けた令和7年度年度目標（全市共通目標を含む）****【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

### 3 昨年度の自己評価結果の総括（参考資料）

令和6年度「運営に関する計画」は新たに改訂された大阪市教育振興基本計画のもと、3つの最重要課題【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】を柱とし策定した。また本校の現状をふまえて最重要課題に基づいた中期目標の達成に向けた年度目標を計画した。

今年度は、児童への継続的な生活指導による安全安心な学校生活の定着、児童数の減少や学習・行事の精選などが関係した結果、教員が児童一人一人に丁寧に接することを目指した取り組みを推進することができ、児童が落ち着いて学習に集中できる環境が定着してきた。特に、教職員は児童が主体的でのびやかに個性を生かすことのできる教育の充実を目指した学級運営や日々の授業・指導に取り組み、児童の学びの保障、教育目標に向けた児童への育成支援に努めた。

さらには区教育関連事業を活用した学力向上サポートの活用、「夢・未来」創造事業に関連し、外部講師を招聘しての体力や健康、運動に親しむ心の育成にむけた活動など、本校児童の課題に則した取り組みをおこなった。

また、豊かな心を育て児童の自尊感情や他者を思いやる心を高める取り組みとして、近年継続して取り組んでいる平和学習の推進と合わせ、今年度から異学年交流を目的とした「たてわり班活動」や近隣幼稚園や保育施設の園児との「幼小交流」を実施した。

加えて、特に若手教員に向けてのメンター研修など教員の相互啓発や全市的な課題でもある不登校児童への組織的な対応、さらには教職員におけるそれぞれの働き方の工夫の見直しを進めることを継続できたことは今年度の「運営に関する計画」によって今津小学校が目指す方向性を再確認することができた。

学校における様々な取り組みや活動を通じて下記および別紙のとおり多くの項目で目標を越える結果を得ることができたと実感している。

#### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

→令和6年度結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は **81.1%**

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

→令和6年度結果、肯定的に回答する児童の割合は **75.2%**

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。

→令和5年度における対全国比は0.88であり、令和6年度は対全国比の目標は0.92であった。結果、本校の対全国比は1.02で目標より**0.10ポイント**上回った。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65%以上にする。

→令和6年度結果、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は **66.3%**

**【学びを支える教育環境の充実】**

●授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

→令和6年度 **1日**

※平均活用率については令和6年3月 26.9%から令和7年1月現在平均で 55%前後へ

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

→3月末全教職員が取得した

大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。</p>  |      |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標   | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。「いじめについて考える日」を設定し、「いじめは人間として絶対に許されない行為である」ことを学校全体で再認識する。</li> <li>・児童の規範意識を高めるため、「学校安心ルール」や「学校生活のきまり」を教職員で共通理解し、児童・保護者に周知徹底する。また、<b>児童会や委員会の活動の一環として啓発活動を行う</b>。看護当番による児童の見守りと児童の実態に応じて、全校朝会や朝の会・終わりの会などで、ルールやきまりの意義などについて説明するとともに、教職員が相互に連携を図りながら平素の指導を行う。</li> <li>・相手の思いや考えを理解しながら話を聴き、相手の気持ちに立って自分の思いや考えを伝えることによって、児童は受け入れられていることへの安心感や充足感を実感できるようになる。このような受容的・共感的態度を基盤とし、児童と教師、児童同士のより深い信頼関係のある集団づくりに努める。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめアンケート」を年間3回実施し、「いじめられている」「いじめた」と回答した児童には、早急に聞き取りを行い解消する。</li> <li>・生活指導部会を毎月1回開催し、各学級・学年の状況を共通理解しておく。</li> <li>・<b>児童会や運動委員会による児童への呼びかけを年3回以上実施する。</b></li> <li>・月に1回、朝会や集会等で、生活指導上必要なことを全体へ周知する。</li> <li>・年3回以上、「学校生活のきまり」を学級で指導するとともに、年間を通して各教室に掲示する。</li> </ul> |      |
| <p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自己有用感や自尊感情を高めるため、係・当番活動や委員会活動など、学校生活の様々な機会ですべて一人一人に活躍の場を与えることにより、児童が集団の一員として自分の役割に気づくようにし、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる。また、学級活動、終わりの会、道徳科の学習などで互いのよさを認め合え</li> </ul>  |      |

|   |  |
|---|--|
| <p>る機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な学年と異学年交流を実施することにより、児童が責任感を持って活動するとともに、自己有用感や自尊感情を育てていく。</li> </ul>   |  |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級で学期に1回以上、互いのよさを認め合える機会を設ける。</li> <li>・<b>たてわり班活動などの全学年による異学年交流の場を年間に10回、学年間単位での異学年交流を各学年2回以上設ける。</b></li> <li>・各学級で学期に1回以上、互いのよさを認め合える機会を設ける。</li> </ul> |  |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>  |  |
| <p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>   |  |
| <p>次年度への改善点</p>   |  |
| <p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>   |  |

大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.04 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 67%以上にする。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が授業研究をする。</li> <li>・学力向上サポート訪問や、外部講師等を有効に活用し、教員の指導力向上及び国語科において児童が意欲的に読み取り、自分の思いや考えをもつ力を培えるようにする。</li> <li>・発達段階に応じた授業の計画を立てる。</li> <li>・場に応じた話型を掲示することで、学びやすい環境を構築する。</li> </ul>   |      |
| <p>指標</p> <p>今年度の研究主題に基づいた授業を、全学年年1回ずつ実施する。</p>   |      |
| <p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科において、学校として板書やノート指導の共通理解を図る。</li> <li>・3年生以上の学年は、金曜日を「自主学習の日」と設定し、自主学習習慣の定着を図る。</li> <li>・読み取る力を深める指導により、意欲的に学ぶ子どもを育てる。</li> <li>・自主学習ノートを、毎月1回掲示したり、ファイリングをしていつでも見られるようにしたりして家庭学習に生かせるよう工夫する。</li> <li>・週2回の朝の「読書タイム」の時間を設定し、学年に応じた学級文庫の活用を行うことで、多くの書物に出会い、読む習慣を身に付けられるよう工夫する。</li> </ul> |      |
| <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「国語の勉強は好きですか」の項目において肯定的な回答をする3年生から6年生の平均を前年度より5%以上上昇させる。</p>  |      |
| <p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業では、個人やグループのめあてを明らかにし、目標をもって運動に取り組めるように指導の充実を図る。</li> <li>・かけ足週間やなわとび週間などの全校的な取り組みを定期的に行い、より多くの</li> </ul>  |      |

|   |  |
|---|--|
| <p>児童が運動に親しめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツへの興味関心を高め、楽しく運動に取り組むことができるように、鶴見区役所の「夢・未来」創造事業等の出前授業に取り組む。また校内において、各学年で、スポーツイベント（団体競技）を計画し、実行していく。</li> </ul>   |  |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを作成・活用し、それを学年ごとのファイルに、単元ごとにファイリングし、次年度以降にも引き継ぎ活用していく。</li> <li>・学年ごと、学期に一回以上、出前授業や合同体育等のスポーツイベントを設ける。</li> </ul>   |  |
| <p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の前や、体育・遊び・掃除・トイレの後の手洗いへの意識を高め、それを習慣化できるように啓発していく。</li> <li>・学年に応じて、栄養に関する正しい知識の定着を図る。</li> </ul>   |  |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いへの意識の向上を図り、習慣化できるように、学期に1回、手洗い強調週間を設定する。</li> <li>・栄養教諭による栄養指導を各学年2回以上行う。</li> </ul>   |  |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>  |  |
| <p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容④】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> |  |
| <p>来年度への改善点</p>   |  |
| <p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【取組内容④】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> |  |



大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b><br>○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%にする〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕<br><br>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】<br>・児童の情報活用能力を高め、対話的で深い学びを進めるために、児童が学習者用端末を活用できる機会をつくる。<br>・授業でICTを効果的に活用できるよう努め、校内での情報共有を進める。                                |      |
| 指標<br>・各学級にて学習者用端末内「まなびのポータル（心の天気を基本に）」を週に複数回活用する。<br>・学習時・朝の学習タイム等において、「ナビマ」をはじめとする学習アプリを週に複数回活用する。   |      |
| 取組内容②【基本的な方向7 人材の確保中心に・育成としなやかな組織づくり】<br>・教職員の心身の健康を維持し、児童の学びを深めるため、ゆとりのある職場環境を整えていく。<br>・業務や行事の精選をはかり、教職員が早く退勤したり、休暇を取得したりしやすい環境を醸成するための掲示や声掛けを進める。 |      |
| 指標<br>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。<br>・長期休業（夏季・冬季）中に学校閉庁日を年間5日程度設け、一斉に休暇を取得できるようにする。  |      |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |      |
| <b>【取組内容①】</b><br>・  |      |
| <b>【取組内容②】</b><br>・  |      |
| 今後の改善点   |      |
| <b>【取組内容①】</b><br>・  |      |
| <b>【取組内容②】</b><br>・  |      |

